

施 工 から 読 み 解 く 建 築

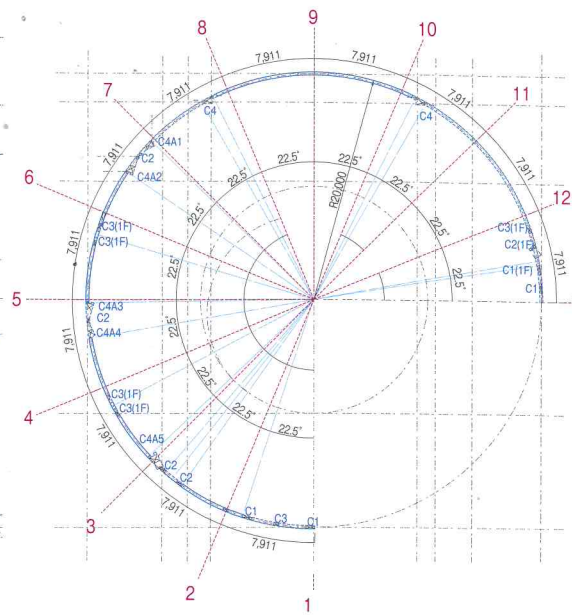
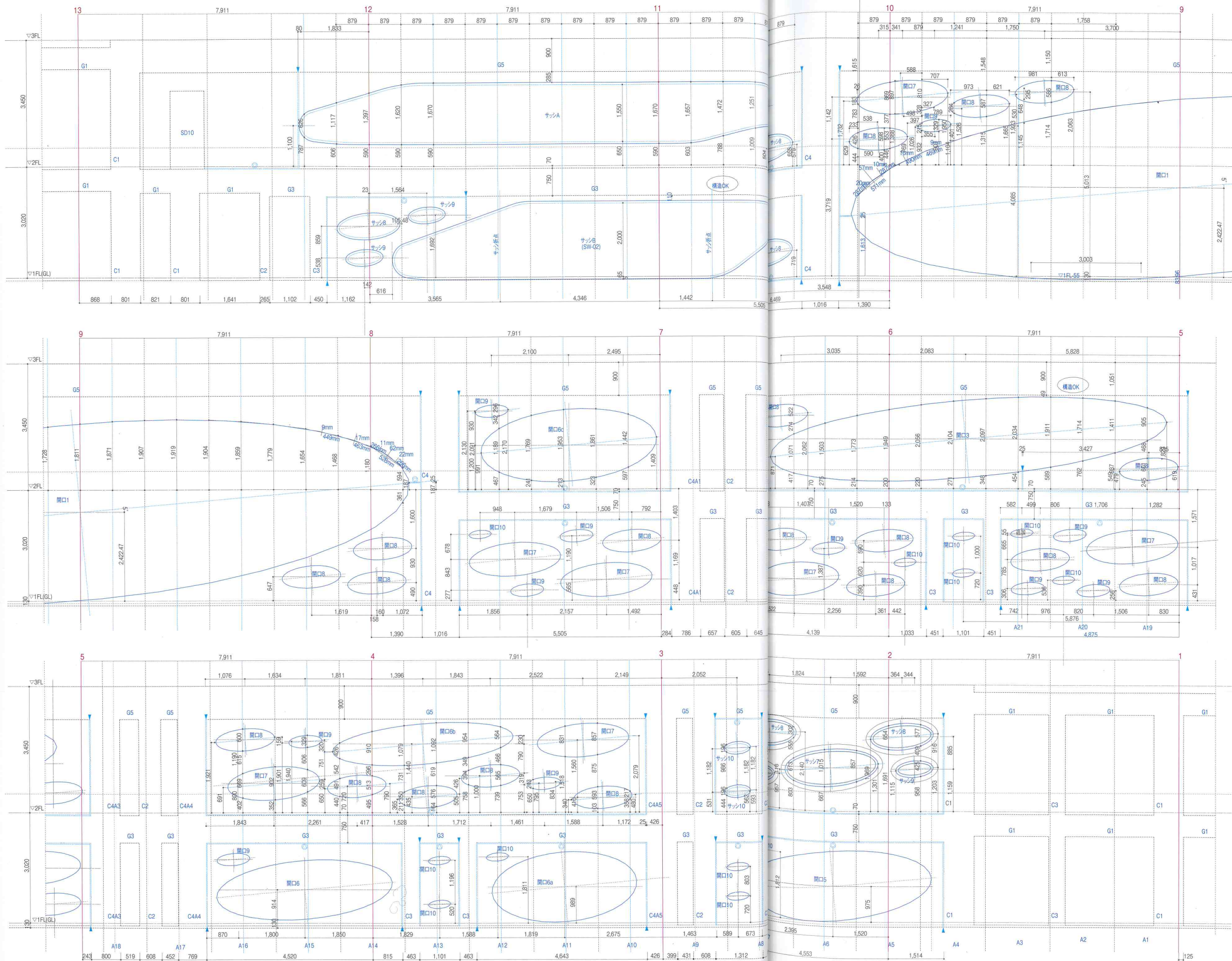
北野建設
の仕事

WORKS OF
KITANO
CONSTRUCTION



2階アートギャラリー内観。ライトを当ててわずかな歪みも拾い出し、それを丁寧に仕上げた滑らかな曲面壁。

1階サロンを見る。右上に張り出したルームIはLGS（軽鉄材）と石膏ボードで仕切られている。



外壁型枠を立てる。



開口型枠の取り付け。



この後、内側の型枠を貼り付け、コンクリートを流し込む。



脱型。

施工図

外壁型枠展開図
縮尺 1/100

ドーナツ型の建物であるため、躯体にあく楕円開口の寸法は外壁側と内壁側ですべて異なる。それぞれの展開図を作成し、型枠を製作した。

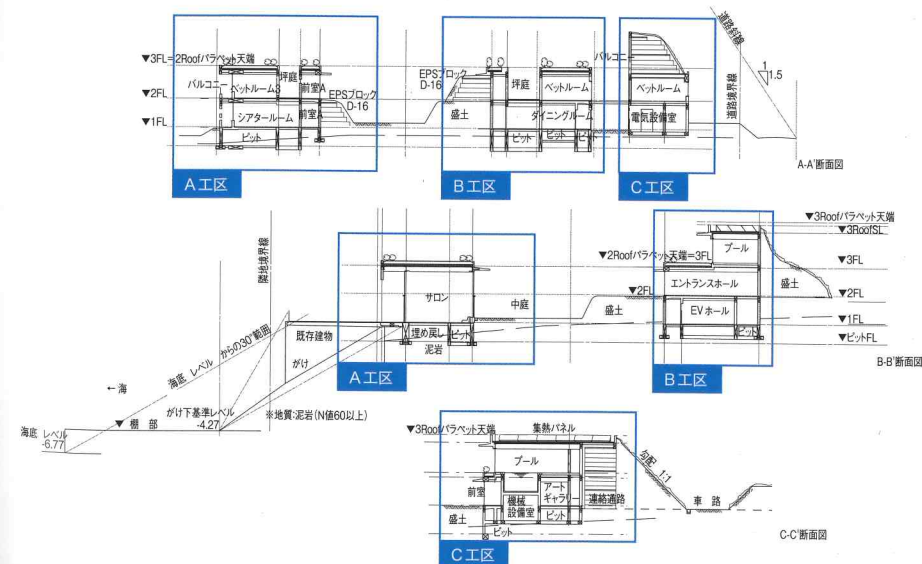
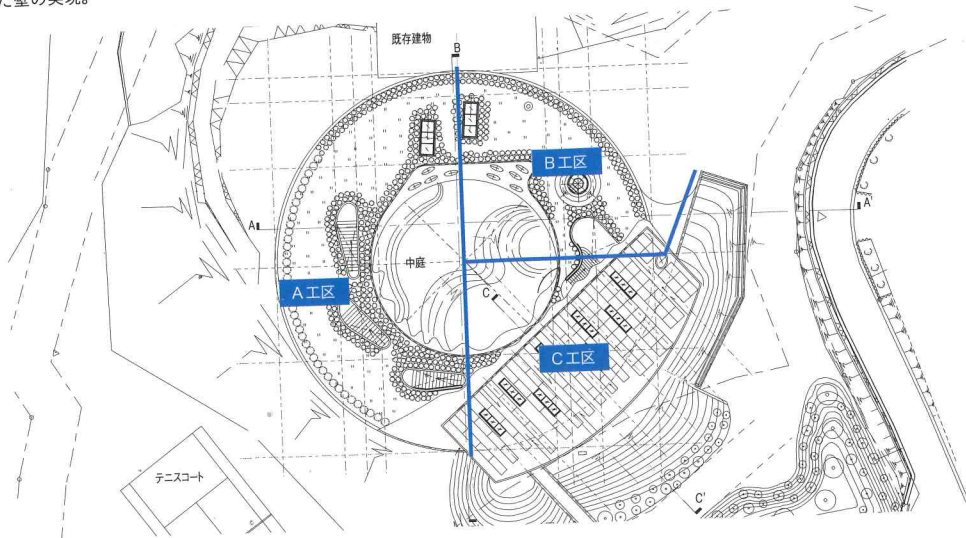


南側より見上げる。滑らかに連続した壁の実現。

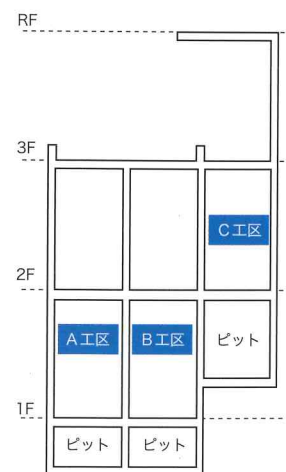
施工図

工区割り図
縮尺 1/800

支持層の高さが異なること、一日に打設可能なコンクリートボリューム、資材などの搬入動線やクレーンの設置位置を検討し、工区をA～Cの3つに分けて施工した。



施工図
工区割り図





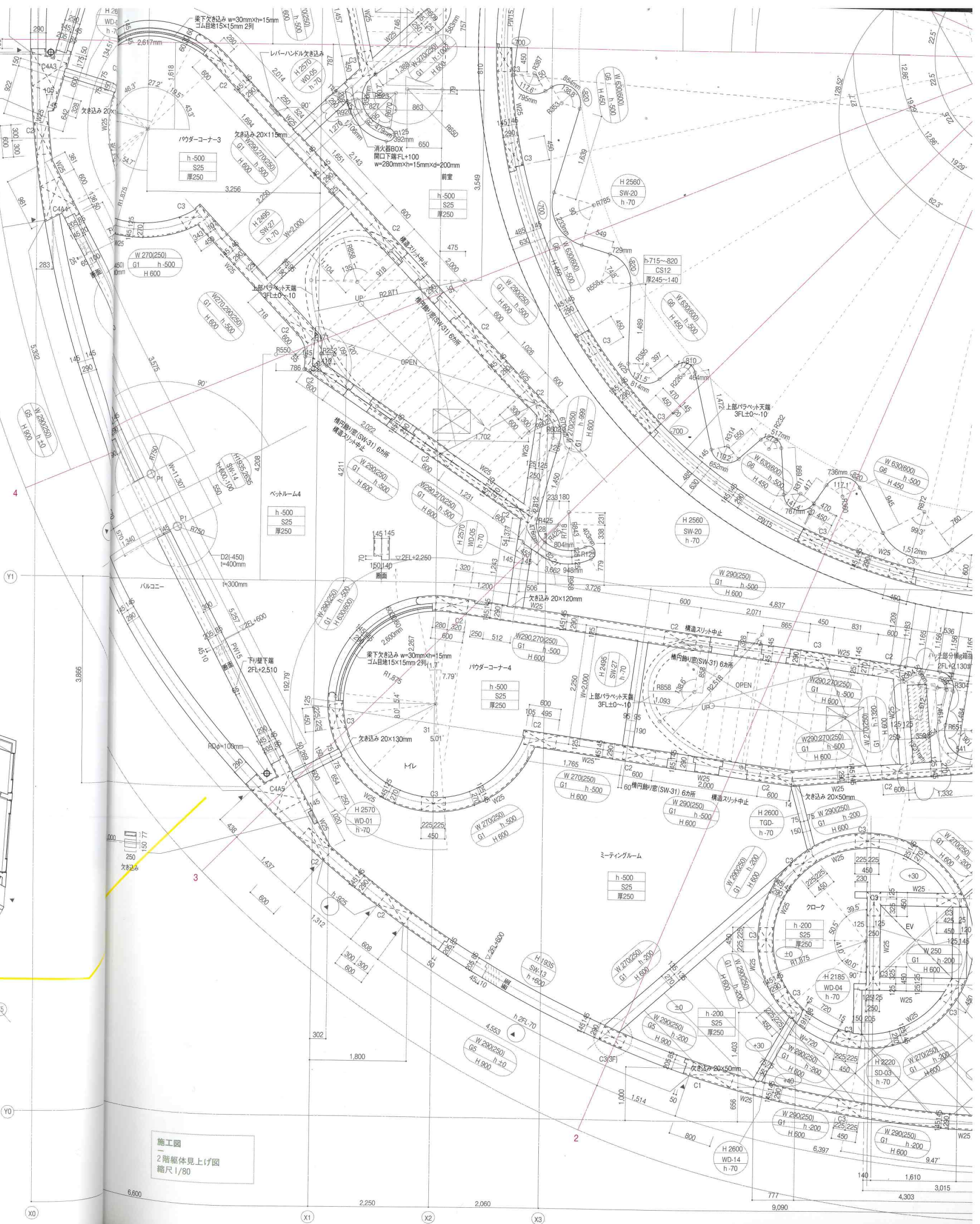
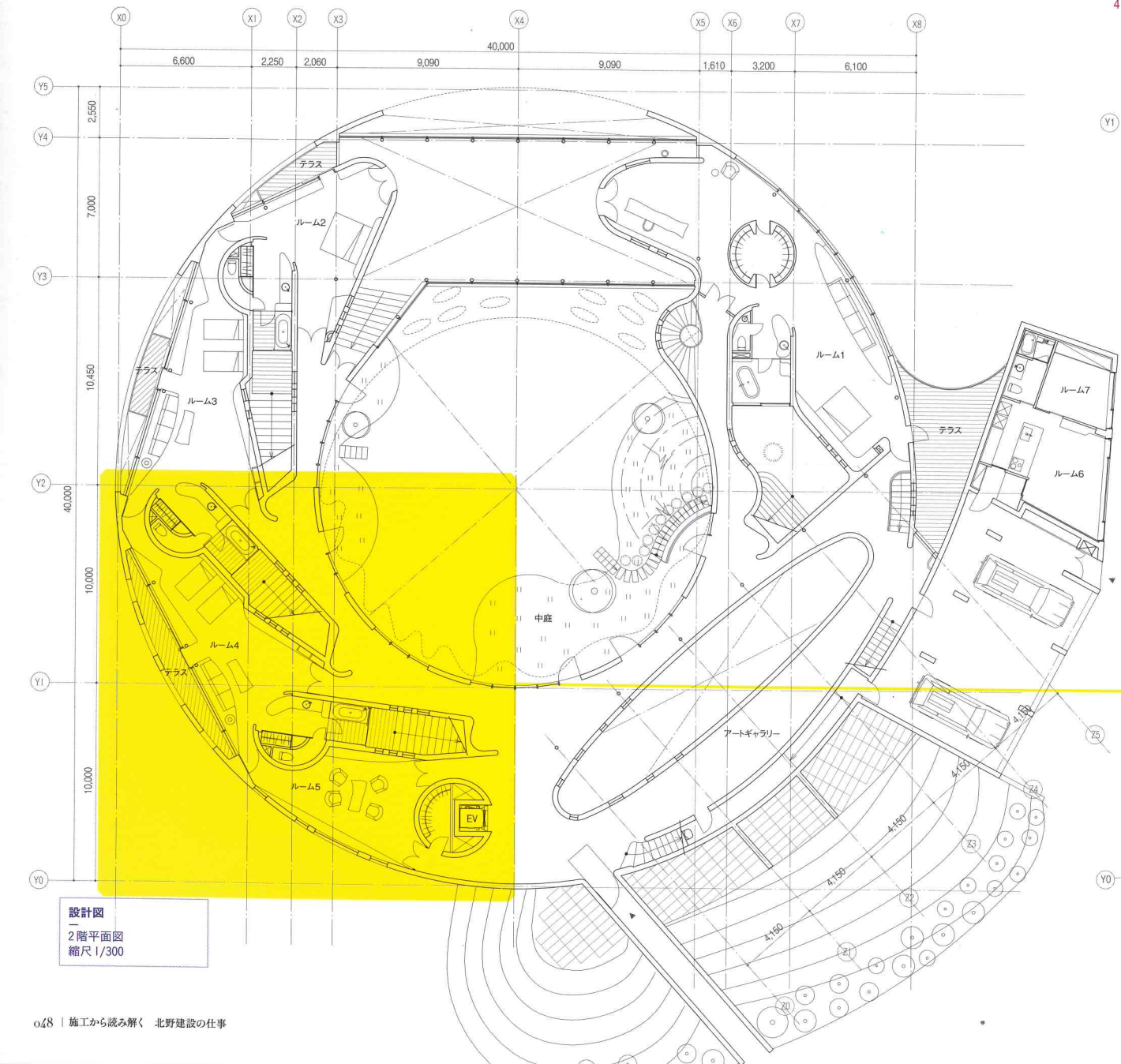
左：屋上と中庭を見下ろす。／右：2階アートギャラリーより中庭を見る。

設計者が見る北野建設の仕事

私たちは現場が始まって間もなく北野建設とさまざまな議論を繰り返して、サンプルを検証し、似た条件の現場を見学し、そして時にぶつかりあひながらプロジェクトを進めた。大小のさまざまなファサードの楕円開口、そこにはめ込むサッシ、起伏の激しい地形と新たにつくる盛土、地熱配管ルート、塩害対策…設計図面に表現した内容ひとつひとつを再び検討し、時には新たなデザインへと展開した。しかしそれは複雑でありながら連続する villaVR

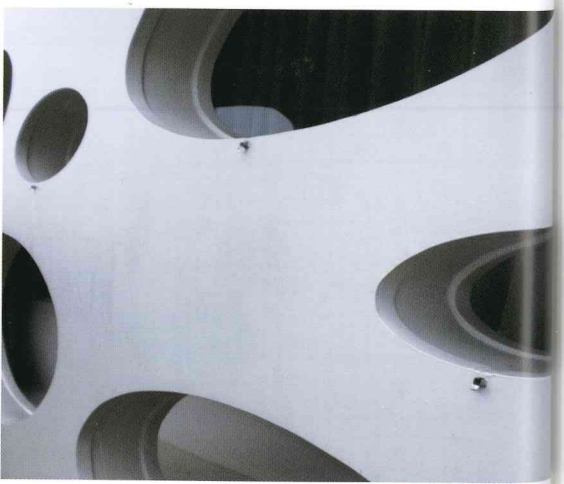
(VR 邸) を構成する建築的な要素すべてに波及していく。そうした変更にも常に追従できる柔軟性とまとめ上げる統率力に、いつしか大きな信頼感が生まれていた。地熱利用のエコを取り込んだ『呼吸する家』の構想を具現化するためのあらゆる私たちの努力に、真摯に向き合ってくれたと思う。技術力と経験もさることながら、新しさへの向上心と分別心、よい建築を生み出そうという根源的なことへのモチベーションの高さは

複雑な設計意図を汲み取る上で大事なポイントである。「自分たちは建築家が想像した建築が実現するかどうかの“最後の砦”だと思っているんです。だから簡単にできないなんて言いたくないんですよ」。山仲所長のこの言葉から、私たちはプロジェクトの成功を確信することができた。(川原崎唯史・金子文子／シエル・ルージュ・クレアシオン)

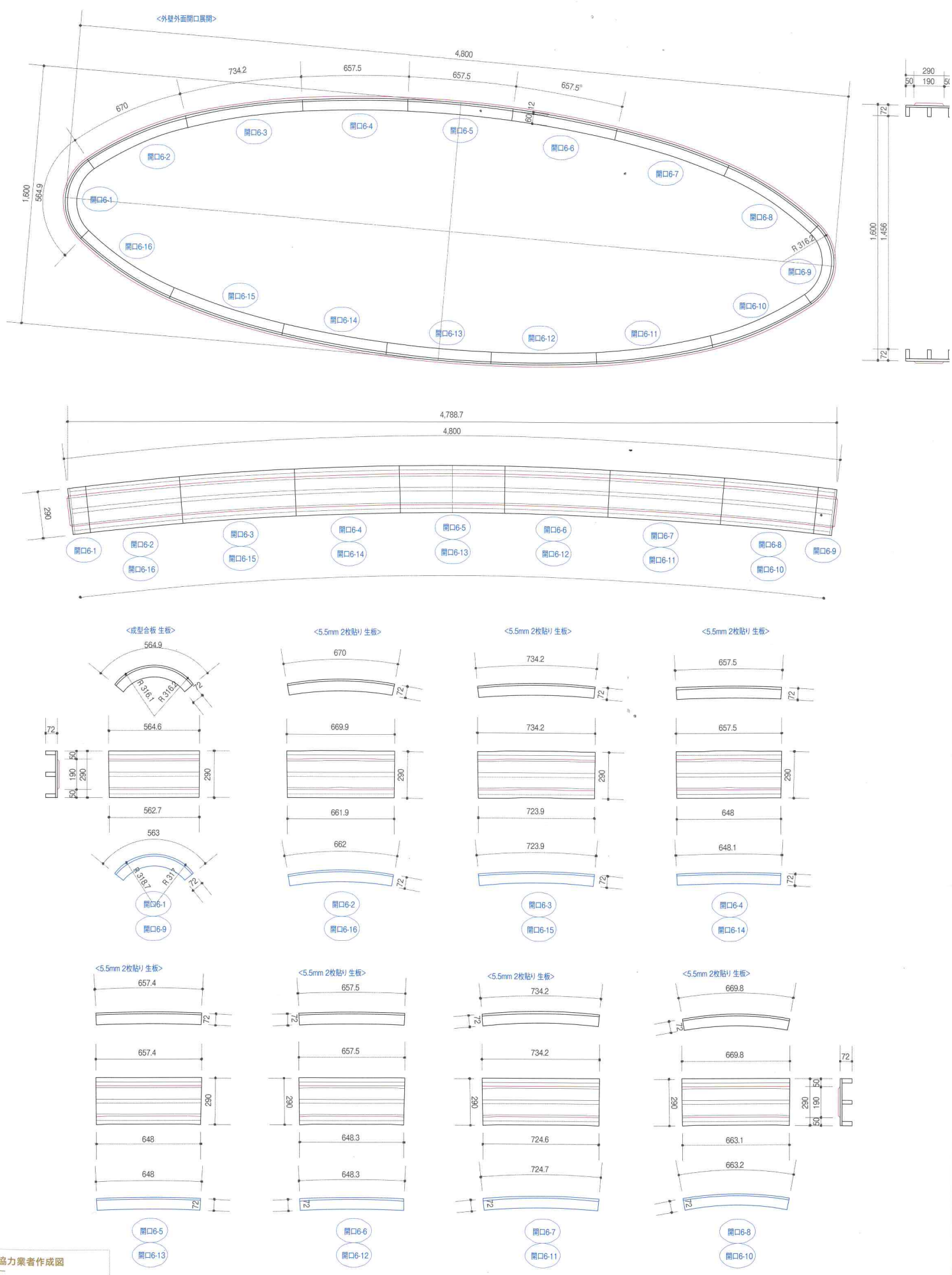




楕円開口越しに海を見る。



上：外壁を見る。楕円開口の下側に見えるのは水抜きパイプ。
左：テラスと楕円開口を見る。



協力業者作成図
楕円開口詳細
縮尺 1/30